

校長室通信

津谷中学校 校長 今野勝美
令和2年4月17日（金）

以前、校長室通信を発行していた校長先生がいらしたということを知っておりましたので、私も不定期ながら生徒または保護者の皆様に向けて発行したいと思います。

今回は **開校記念日特集** です。

津谷中学校の開校は、昭和22年4月17日 木曜日。

校名：本吉郡津谷町立津谷中学校（津谷町という町でした）

初代校長は、右の写真にある「島山泰二」校長先生です。

私は、初代校長から数えて27代目になります。では、これまで本吉町出身者が何人津谷中学校の校長を行ったのでしょうか？

- 津谷出身者 12代校長 菅原和衛先生，15校長 齋藤孝雄先生，
16代校長 佐々木博邦先生，18代校長 須藤民雄先生
- 大谷出身者 19代校長 小野寺三千秋先生，20代校長 遠藤直明先生
- 小泉出身者

6代校長 佐々木忠先生，21代校長 佐々木厚先生，27代校長 今野勝美
本吉町出身者は9人，その内，地元津谷出身は4人でした。



[津谷中学校の校歌について]

津谷中学校の校歌は、昭和33年3月3日に「津谷中学校創立10周年記念式典」の際に現在の校歌を制定しました。今から丁度62年前のことです。作詞は水上不二，作曲は芥川也寸志です。歌詞には、不二独特の郷土の自然に対する畏敬や愛情が醸し出され、特に当時住民の願いが叶って気仙沼線が本吉まで開通し、この地から日本はもとより、世界へ羽ばたくという視野が込められた内容になっています。ただ、現在は「脈うつ**鉄路**」が震災により、BRTバスに変化していることが少し残念な気がします。曲は、シンプルながらとても心臓の鼓動を感じさせるような軽快なリズムで、淡々と歌う中にも最後の「かがやかし われら」に向かって気持ち込めて歌い上げるようになっています。応援歌のない津谷中学校においては、現在はこの校歌を応援歌バージョンと儀式用の2種類に分けて歌っております。

水上不二（1904年～1965年）

気仙沼市大島出身，現在の気仙沼向洋高校を卒業後，この地区の小学校3校に勤務した後，昭和3年に上京し東京の小学校に勤める。同時に北原白秋らと詩集を発行する。友人には「ぞうさん」や「やぎさん」などの作詞家「まどみちお」がいる。気仙沼市の白山小，階上小，水梨小，松岩小，松岩中，大島中，唐桑中，津谷中の校歌を作詞している。



芥川也寸志（1925年-1989年）

小説家・芥川龍之介の三男として東京に生まれる。終戦後，東京音楽学校研究科を卒業し，音楽界で幅広く活躍した。彼の作品は，管弦楽，室内楽，器楽，声楽曲，合唱曲，舞台音楽，放送音楽，映画音楽，CMソングなど数多くある。校歌についても全国約100校の校歌を作曲しているが，宮城県内をみると本校のほか，大島中と東陵高校だけである。



※津谷中校歌については，ホームページの「学校紹介」の中にあります。

